第2回　安保3文書を批判する連続講演会
「横須賀・横浜の基地の動きと安保3文書」
木元茂夫さん講演会報告

松本朗

3月28日午後、イーブルなごやで「安保3文書を批判する連続講演会第2回」「横須賀・横浜の基地の動きと安保3文書」が行われ、神奈川から「すべての基地にNOを！ファイト神奈川」の木元茂夫さんを招いて講演会を行いました。冒頭に石垣島における基地開設をめぐる地元での反対行動を紹介。その後木元さんが続ける基地監視の活動から、軍拡の実態を明らかにしました。以下、講演内容報告です。

横須賀の動きとも関連する形で3月16日、石垣島に駐屯地が開設され570名の自衛隊員が配備された。石垣島の港は台湾の花蓮港と姉妹港を締結しており戦後78年間、石垣島には軍事施設はなかった。また横須賀の艦艇はホワイトビーチを拠点に琉球弧のパトロールにくりかえし出動している。横浜ノースドックのアメリカ海軍音響測定艦は中国の海南島付近まで進出し潜水艦音を収集している。

2023年2月から3月にかけて日米共同演習「アイアンフィスト」が大分県の日出生台や奄美各島で行われた。これは陸上自衛隊とアメリカ陸軍海兵隊の共同演習で、これまでアメリカで行われていたが今年、初めて日本で行われた。さらに3月1日には東シナ海では機雷掃海をともなう実践的な上陸訓練も行われている。呉や佐世保のアメリカ海軍強襲揚陸艦が参加した。このような大規模演習が頻繁に行われるようになった。この状況下、南シナ海ではアメリカと中国の軍艦が接近することが多くなり、横須賀配備のイージス艦がくりかえし出動するようになった。

強襲揚陸艦とは海兵隊員を大型ヘリで揚陸させるための軍艦で、今回の訓練で陸上自衛隊の大型ヘリがアメリカの強襲揚陸艦に発着した。有事の際には海兵隊員を陸自のヘリで上陸させることも考えられる。さらに「国家防衛戦略」の名のもとに訓練の大規模化が予想される。今後はアメリカ軍の後方支援における連携の強化が図られるだろう。それは日米共同計画に関わる作業を通じ、より高度で実践的な演習、訓練を通じて同盟の即応性をはじめとする対処法の向上を図るだろう。

横須賀軍港には空母とイージス艦がひしめいている。2022年から2023年にかけて新鋭艦も増えて配置されるようになった。最新のイージス艦「はぐろ」には17式対艦誘導弾を搭載している。防衛相は発表していないが射程距離は400kmと報道されており従来の対艦ミサイルの120kmから大幅に延長している。中国の艦艇への対抗を意識していると思われる。

安保3文書の「国家防衛戦略」には「我が国の反撃能力については情報収集を含め、日米共同でその能力を効果的に発揮する協力体制を構築する」となっており海上自衛隊のイージス艦8隻すべてにトマホーク V（射程1600km）を搭載するとしている。そのために必要な予算として 23 年度に取得費2113億円（400 発）と関連機材の取得費1104億円が計上されており 24 年度からイージス艦の改修費用も計上される。

2022年7月16日には環太平洋合同軍事演習「航行の自由作戦」が行われた。横須賀から「いずも」も出港し、横浜ノースドックからは地対艦ミサイル部隊をハワイへ輸送した。陸上自衛隊は 12 式地対艦ミサイルの実弾を発射し洋上の退役艦艇を撃沈する訓練に参加。中国の艦艇を攻撃することを想定した訓練だ。演習が行われた海域は中国が岩礁を埋め立てて基地を作った南沙諸島のファイアリークロス座礁に近い場所。

他にも海上自衛隊は比与宇弾薬庫を増設し、2023年から2027年にかけて全国で70棟の火薬庫を増設する。そこでのミサイルの種類、火薬の量は明らかにされていない。横須賀の消防局も万が一の事故の場合の対応策についても自衛隊から何も聞かされていないという。さらに横浜ノースドック（アメリカ軍用岸壁・53ha）は自衛隊との共同使用が拡大している。そこへアメリカ陸軍小型揚陸艇部隊が新編制される。揚陸艇 13 隻と 280 名の部隊であるがこれらの詳しい情報を明らかにするよう、3月 15 日に神奈川県議会に意見書を提出し、速やかに情報提供を行うと共に県内基地の整理縮小・早期返還に取り組むことを訴えた。